

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした福祉づくり」「その人らしく生きていくための支援」などを理念にあげ、本人の希望に添うようにサービスに務めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム数ヶ所に掲げており、会議や日々のケア中にも理念に添ったケアが実践されているか話し合いを持っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時には必ず理念についての説明を行ない運営推進会議でも説明し、理解していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事には出来るだけ参加し、顔見知りの関係をつくっている。道での挨拶、声かけは当然ながら、花や野菜等を分け合ったり、手作りのおやつを持って行ったりと、親しくお付き合いしている。	○ ホームでの行事にも近隣の方々に多く参加していただけるよう声かけをしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており地域の一斉清掃、公民館やお宮の清掃など欠かさず参加している。草取りや地域の祭り等には入居者の方々も一緒に参加して近隣の方々とのコミュニケーションも大切にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で相談を受け、アドバイス等もしている。また、自治会行事参加時にも相談を受けている。	○	地域の高齢者の方々をホームに招いたり、訪問したりと交流していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価し、自分たちのサービスが適切であったか、またもっとより良いサービスが出来るのではないか等、会議の場だけでなく機会を見つけては職員同士で話し合うことができた。	○	できてない項目や取り組んでいきたい項目についてはさらに話し合いを続けていき具体的に1つずつ改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の方々の身体的状況や行事説明などの他に、防災訓練にも参加していただき、専門的なアドバイスを受け、参考に出来た。また入居者の方々と直接話をしていたり、昼食を共にしていただいたりしてグループホームへの理解を深めていただいた。また会議の内容を職員会議で報告しサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議や講習会等にはできるだけ出席して、他所の事例や新しい情報を知り、サービスの質の向上に役立てている。	○	さらに連携を深めてサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は以前に勉強会などに出席して学んでいる。職員は全員ではないが学んでいる。	○	これからも、機会があれば勉強会等に出席してさらに詳しい知識を身に付けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に丁寧な言葉遣いが出来ているか、本人にストレスがかかっていないかなど気遣いながら、職員同士で協力、見守っている。	○	今後は高齢者虐待防止関連法についての勉強会を行なう予定である。また機会があれば外部学習会などにも参加し、さらに防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず注意事項を読みながらひとつひとつ説明している。ご家族も十分に納得して契約していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と職員は親しく話し合える関係にあり、日頃から自分の希望をはっきりと伝えている。またご家族、ご親戚、ご友人等も頻繁に来訪される為、不満等があれば聞く機会がある。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書を送付するときに、通院、健康状態、預かり金の残金額、行事やレクリエーションの事など便りに書いて送付している。また個人の買い物レシートも同封している。また、緊急性、重要性のあるものは電話などで報告している。	○	スタッフの異動については今まで知らせてなかったもので、今後はお知らせする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ずご家族の方に出席していただき、そこで意見等を述べていただいたり、ご家族が来訪された際には必ず管理者か職員が時間をとって話を聞くようにしている。希望等があったらすぐ検討して対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見を聞く時間をとっている。また、日頃常に職員の意見や提案を聞けるよう心がけて、採用できるものについては早急に実行している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員を基準より多く配置し、通院やレクリエーションでの外出、病気などで人手がいる時はパート職員を増やすなどして対応している。	○	今のところはいないが、入居者の方がターミナルになった場合は訪問看護等も利用して対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2年間でパート職員で1名の異動、1名結婚退職があったのみで常勤職員は変わっておらず、家族同様に親しんでいた。	○	新しく採用する場合も入居者の方と良い関係を作っていけて、長期間働ける人を採用していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては何の制限も設けていない。実際、30才代～60才代(男性1名を含む)の幅広い年齢層で、それぞれの希望や個性に合わせて勤務体制を組んでいる。また休みもなるべく希望に合わせて取れるようにしている。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部学習会を開いたり、日々のケア中でも互いに言葉遣いや、ケア内容について注意したり話し合ったりしている。	○	今以上に職員の意識向上を目指し会議や学習会でも取り上げていきたい
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に2回以上の研修レポートを義務づけ各種の講演会、学習会の参加を呼びかけている。	○	他事業所へのステップアップ研修を予定している。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型グループホーム部会に所属しているのでそこでの勉強会等にも参加したり、他グループホームの話を聞き良い点は参考にして向上に務めている。	○	他グループホームとお楽しみ会等に訪問しあう予定である。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の悩みストレスは皆で話し合い、解決に向けて努力している。自由にお茶を飲んだり、休み時間にはストレッチや体操なども行なっている。また、親睦会や社内旅行なども行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの個性に応じ担当も決めている。意見や要望も取り入れ、個人の力が発揮できるよう努めている。	○	職員がさらに向上心を持って働けるよう事例発表会の場を設けていきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の重度の方が多いので、様子観察や言葉かけをし、本人の不安や希望を予測して、対応している。またコミュニケーションを絶えずとるようにして小さなサインも見逃さないように努力している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪された折にはゆっくり話をする機会をつくっている。食事を共にとったり、お茶を飲んだりしながら話を聴いている。また電話等でも相談を受けている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	時間をかけてなるべく詳しく話を聞き本人にとって最適な支援は何かを見極め、出来るだけ家族や本人の希望に添うよう支援している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する前に”体験入所”していただきこちらを気に入った上で入所していただいている。落ち着かれるまで職員が添寝したり好物を用意したり、声かけ見守りを注意深く行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方を習ったり、洗濯物干しを一緒にしたりする中で”ありがとうございます。助かります。”と感謝の気持ちを表すと共に、人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪されるとお茶や食事を共にし本人の様子や会話を伝え情報を共有している。信頼関係もでき互いに相談しながら本人にとってより良い介護が出来るようにしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	グループホームでお預かりすることで家族の負担や不安が減り、余裕が出来て本人に対する気持ちにもゆとりが出来、良い関係が築けている。職員もご家族が安心できるよう良い介護をするよう努力している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	こちらから季節のお便りを出したり、来訪された折には食事と一緒にしていただいたりしている。機会があれば馴染みの場所にお連れしている。以前利用していたデイサービスや友人宅にもお連れしている。	○	行事や誕生日にはご家族だけでなく、ご友人やご親戚も招待していきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いに助け合って洗濯物をたたんだり、食事の準備(皮むきなど)を手伝ったりしている。視力の弱い方の手をとって歩かれたり、食事中に皿を取ってあげたりしている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ退所された方で断続的な関わりを必要とする方がいらっしゃらないが、長期入院となられた方へは時々お見舞いなどに行っている。	○	今後必要である方には対処していくつもりである。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での関わりから一人、一人の希望意向をつかむようにしている。言葉数の少ない方は表情や態度から汲み取るようにしている。	○	今以上に職員全体で注意深く見守る中で本人のニーズは何か汲み取って行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で昔の話をしたりご家族からお話いただいたりしている。以前サービスを利用されていた場合は事業所からの情報もいただくようにしている。	○	ご親戚、ご友人の方からもさらに詳しく聞き取り、これからの暮らしに役立てていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録に精神、心身状態、活動したことを細かく記載している。全職員が記録に目を通し情報を共有できるように行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望、意向を確認し、かかりつけ医とも相談して作成している。また、希望、意向を直接訴えることができない方もおられるため、職員全体で本人のニーズが何か話し合いながら作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の意見、要望を再確認し、職員、看護師なども含め話し合い見直しを行なっている。また、状態の変化のあった場合にも検討し見直しを行なっている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に心身状況や日々の様子、食事、水分量、運動量、会話した内容等も記録し、全職員が必ず目を通して見ている。変化があった場合は話し合い見直しに活かせるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院だけでなく入院された折にも家族の支援をしたり、帰省の折には送り迎えをしている。遠くのご親戚やご家族様にお泊りを提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、ご近所の方々が訪れて交流している。また、以前ご利用していたデイサービスの方々も時折訪問され一緒にお茶など楽しんでいる。	○	地域の文化祭や運動会などにも参加して、交流していきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要な方は訪問歯科のサービスも受けている。以前利用していたデイサービス等にも遊びに行くことがある。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加いただいている他、電話等での情報交換もしている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関を受診している。何かあったら電話での問い合わせや往診も頼んでいる。	○	医療機関とさらに密なる関係が築けるよう情報交換を頻繁に行ないたい。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医に相談している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員が通院、服薬準備、健康管理、体操など指導し、何かあったらすぐに相談できる体制にある。	○	ターミナルに備えて訪問看護の利用も考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、職員が付き添って必要な情報提供を行い、度々病院を訪れ医師や看護師と情報交換をしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ重度化した入居者はいないがご家族とは機会があるごとに話し合っている。事業所としてはご家族の意向があればターミナルケアしていく。	○	ターミナルに向けて夜間体制、看護体制について事業所としての準備を進めていきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員でターミナルを迎えたときどう対応するか機会を見つけ話し合っている。他の事業所の事例についても検討し参考にしている。	○	かかりつけ医ともっと話し合っ具体的に対策を考えていきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院された場合はこちらから職員が頻繁に出向き、情報交換を行なった。また、本人とコミュニケーションをよくすると共に、食事介助等も行い認知症が進行しないよう努めた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等個人情報事務室での閲覧のみ、個人情報を他所では話さないよう、職員共々気を付けている。丁寧な言葉遣いで本人の尊厳を傷つけない対応をするよう心がけている。	○	より一層職員で徹底していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	買い物や外出、散歩の際も希望を聞いて無理強いしないよう心がけている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、体調や状況に合わせて、起床、就寝、食事の時間なども変えている。外出やレクリエーションも無理強いせず、希望にそって行なっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	今のところ希望される方がいないので、お店に行ったことはない。ホームで化粧品をそろえているので毎朝化粧されたり、外出時化粧されたりしている。職員が声かけして身だしなみにも気を付けている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族から本人の好き嫌いを聞き、本人にも何が食べたいかよく聞いている。好物はなるべく回数多く出している。また出来る範囲で、食事の準備も手伝ってもらい後片付けは毎日一緒にしている。	○	初めはよく手伝って下さった方も徐々に難しくなってきたが、少しずつでも毎日することで残存能力を引き出していきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	今のところ酒、タバコを好む人はいないが、アイスクリームや乳酸飲料、バナナなどが好物の方が多く常備している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれ排泄記録をつけ、一人一人の排泄パターンを把握して失敗のないようトイレ誘導をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的に決めてはいるが、毎日入浴される方、2～3日に1回の方、起床後すぐの方など本人の希望や体調に合わせて入浴している。	○	冬などは就寝前に入浴できるよう職員の配置等も考えていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家での生活習慣に合わせ、洋室か和室を選ばれており、ベットか布団好まれる方で寝ていただいている。また就寝時間も今までの習慣や希望に合わせている。眠りにつくまで職員が添寝したり、低く音楽をかけたり、2人で一緒に寝たりと工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日庭に出て花を摘みホームの花を活けかえたり、散歩、音楽や歌、折り紙を楽しまれたり、新聞を読むことを日課にされ本人の希望や趣味を活かして過ごしていただいている。また、食事の準備や後片付け、洗濯物干し、たたみ、部屋の掃除などの仕事も出来るだけ一緒に行なうようにしている。	○	敬老会、誕生会など職員が入居者を楽しませるのではなく、入居者の方に発表の場をもうけて、張り合いを持たせるようにしたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はご自分でお金を支払っていただいたりお孫さんにお小遣いを上げたりされている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝庭で花を摘まれたり、買い物に同行されたり、気候の良い時期は午前、午後と散歩に行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに花を見に行ったり、文化祭やお祭り、以前通っていたデイサービスなどにも訪れている。また、ご家族やご親戚となじみの場所に出かけられたり、ご法事などにも出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合は家に電話したり、こちらから連絡して電話をしてもらったりしている。ご友人やご親戚にも手紙を書いたり返事を出されるよう支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご友人もよく来訪され、一緒に昼食や夕食、おやつをとっていただいたり、時にはお昼寝されたりもする。また、ご親戚やご主人などお泊りになることも多い。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士でよく話し合っており、見守りや工夫することで身体拘束をしないようにしている。	○	今後はさらに勉強会の回数を重ね職員が正しく理解し実践するようにしていきたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないようにしている。裸足で外に出て行く方がおられる為、入浴時や排泄時に職員が2人がかりで介助する場合等人手の足りない時はやむを得ず1時間ほどかけることもある。	○	1時間でもパートの方に入ってもらおう等、鍵をかけなくてすむ方法を考えて行きたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレでは転倒防止して、ドアの外で待つようにしている。失禁などされても、周りの方に気付かれないよう本人が恥ずかしくないよう配慮し声かけをしている。夜は頻繁に見回りして、一人でトイレに行く方の誘導をしている。	○	ベットや椅子からの立ち上がられるときの転倒が多いので、さらに見守りを重視し、職員同士で気配りして危険のないようにしていきたい。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の重度の方が多いため、錠剤、薬品、洗剤などは一括して保管しているが、必要なときは見守りながら使ってもらっている。		

福岡県 グループホーム銀の庵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	立ち上がり時の転倒が多いため見守りを強化し、服薬時は職員が必ず飲まれるのを確認する。防災訓練も定期的に行なっていて、日頃から職員同士声かけて注意を怠らないようにしている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を開いて応急手当の方法を学んでいる。また、緊急連絡先が一目でわかるように数箇所に掲げている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を定期的に行なっている。運営推進会議で災害時の協力をお願いしている他、近隣の方々にも機会があるごとをお願いしている。	○	地震や水害の際の避難方法、場所支援体制についても具体的に考えて行きたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時には詳しく起こり得るリスクについて説明しているが、来訪時にも機会を見つけ話すようにしている。	○	転倒、圧迫骨折、発熱、感染症など具体的な話もしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の日々の記録を常に確認し職員同士が情報を共有して小さな変化も見落とさぬよう注意している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬入れに説明書きを張っており、薬が変わったり増えたりした時は申し送りや会議等で説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録をつけ、一人ずつの排便周期を把握している。水分量も記録して水分補給を行い、午前のおやつにヨーグルト、果物を取るようになっている他、食事野菜、芋類を多くしている。便秘の方もかなり改善してきている。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後に歯磨きやうがいを行い口腔内の清潔保持に気をつけている。義歯はポリドントにて消毒している。	○	時々、訪問歯科により、口腔状態を見ていただくようにしたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度体重を測り、太りすぎ、やせすぎのないよう食事量、内容に気をつけている。水分量も毎日記録している。個人に合わせ、主食の量や糖分の量も調整している。刻み食、おかゆ等それぞれに合わせている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部学習会にて感染症マニュアルの読み合わせをしたり、看護師に助言をもらい予防に努めている。	○	さらに手洗い、消毒を強化して防止に努めていきたい。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	主な食材はグリーンコープ生協からとり、賞味期限等もチェックしている。また、野菜はよく洗い酢を多くとるようにしている。台所は、日勤と夜勤で2回掃除し、布巾、まな板は毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や庭には季節の花を植え、観葉植物などを置いている。また、庭には椅子、テーブルを置きお茶やおやつを食べられるようにしている。		

福岡県 グループホーム銀の庵

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をいつも絶やさぬように玄関や居間に活けている。観葉植物もそれぞれの居室に置いている。また、消臭剤も天然のアロマオイルをたき不快なおいのないようにしている。	○	オープンキッチンになっているので茶碗やなべを洗う音に不快を感じる方がいらっしゃる為、静かに洗うよう一層心がけたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に続く和室で一人静かに過ごされたり横になって休まれたりしている。また、気の合った者同士で横に並ばれて座ったり、談笑されたりしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室と和室が選べ、嫁入り道具の鏡台や使い慣れたタンス、置物、人形、御位牌なども持ち込まれている。	○	お1人がプラスチック引き出し等で済ませているので、家族とも相談して、本人の馴染みのものを置きたい。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめにやっている	各部屋に温度計を設置して室温をチェックし、換気や加湿をこまめにしている。朝と掃除の時間は必ず窓を開け空気を入れ替えをしている。臭いが気になるときは消臭オイルをたいて消臭に努めている。また観葉植物等も居室に置いている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりはもちろんのこと、玄関には椅子を置き自分で靴の着脱が出来るようにしている。また、自室から廊下、居間、トイレまで一人で行けるようになっている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれのわかる力に合わせて、名札だけでなくドアにシールを貼ったり、人形などを下げて目印にしている。トイレには「お手洗い」と大きく目線に貼っている。	○	それでも年とともに識別できなくなっているため、鈴を付けるなどしてもっと分かりやすい工夫をしていきたい。
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは洗濯物干しだけでなく、座ってお茶を飲んだり外を眺めたりしている。庭には草花が多く、花を摘んだり草取りをしたり、テーブルと椅子があるのでおやつを食べたりおしゃべりを楽しんだりしている。	○	今年は冬瓜、にがうり、青じその苗を植えたがもう少し野菜の種類を増やし入居者の方々と植えて楽しみたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

福岡県 グループホーム銀の庵

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①元気で長生きしていただく為に午前、午後に体操や歩行練習の時間を多くとったり、散歩や買い物、外出など体力づくりに努めている。

②入居者の方と近隣の方々との顔なじみの関係を作る為、朝夕の散歩、地域行事への参加（草取り、祭りなど）を続けている。花の苗や野菜をいただいたり、こちらからは手作りの草もちを持って行ったりと親しい関係ができつつある。

③ご家族とのふれあいを大切にいただくため、ご家族がいつでも自由に来訪でき、一緒に食事を共にしたり散歩や外出が出来るよう支援している。ご家族と職員も親しい関係ができ、料理の作り方を教えあったり、手作りのお菓子を持ってきて下さったりと入居者の方を間にして話のはずむ事も多い。

④一番の楽しみである、食事やおやつは手作りを基本に安全な食品（無農薬、無添加等）を中心に季節の野菜を多く取り入れている。手作りのヨーグルト、芋饅頭、ジャム、漬物類など大変に喜ばれている。